

豊かなことばを育もう

第2回

ことばの「質」を高めよう

1. ことばの重要性を知ろう。

1学期も残りわずかとなりました。

4月からみなさんは、幼稚部、小学部、中学部、高等部のそれぞれの学部で、先生や友達とたくさんのことばのやりとりを通して、学習を進めてきました。また、自宅では、家族とたくさんやりとりをしたり買い物で店員さんと会話をしたりするなど、やはりことばを使って生活していますね。

ことばを使う場面は、やりとりの場面だけではありません。何かを考える（「思考」とも言います）ときや、誰かとけんかをしたときに高ぶった感情を落ち着かせる（「感情のコントロール」とも言います）ときにも、ことばを使います。高等部のみなさんの中には、自分はどのように生きていくか（「アイデンティティ」とも言います）を考えている人もいるかもしれませんが、そのときもことばを使って考えますね。

このように、ことばは私達の生活や自分の成長には必要不可欠なものです。今回の『豊かなことばを育もう』では、まず、私達が意識せず使っていることばの重要性を、改めて知ってほしいと思います。

2. ことばの「質」を高めよう。

次に考えたいことは、ことばの「質」を高めるということです。

みなさんは、ことばを覚える前に、規則正しい生活を身に付けるとともに、たくさん遊んだり音を聞いたりして、ことばを学ぶ準備をしてきました（詳しく知りたい人は、前回の自立活動だより『豊かなことばを育もう第1回』を読み返してみましょう）。

そして、準備したことを土台に、幼稚部の段階では遊びやかかわり合い等の具体的な体験の中で、たくさんのことばを覚えたり、使ったりしていきます。

小学部では、幼稚部段階で覚えたことばを、国語や算数などの各教科等と関連させながら覚えたり使ったりしていきます。3年生・4年生以上になると、より難しい学習へととなっていく、中学部・高等部へと繋がっていきます。

難しい学習というのは、「具体」から「抽象」に移っていくということと似ています。みなさんは、「具体」と「抽象」の意味を知っていますか。辞書で調べてみましょう。

単語	調べたこと
(読み:) 具体	
(読み:) 抽象	

表1 「具体」と「抽象」の意味

この具体的な経験や物事から抽象的な事柄へ学習が移る際に、ことばの「質」を高めていくことが、とても大切です。

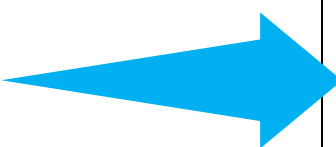
矢印(→)は、右へ移ることでことばの「質」の高まりを示しています。	
・ 日常の会話 ・ やりとり ・ 絵日記 ・ 日記	 ・ 話題について明確な作文 ・ 主張がはっきりしている小論文や発表 ・ ある話題に対しての議論や批評 ・ 論理性のある文章

表2 ことばの「質」の高まり(例)

みなさんは、自分のことばの「質」を高めていくときに、今自分がどんな力が付いていて、これからどんな力を付けていけば良いか分かりますか？特に中学部や高等部のみなさんは、上の表2を参考にして、自立活動の時間で先生と確認しながら話し合ってみましょう。

3. 最後に

『豊かなことばを育もう』の第2回では、ことばの重要性とことばの「質」を高めることについて話をしました。『豊かなことば』を育むときに、ことばの「質」を高めるという視点も大事だということが、今回みなさんに伝えたかったことです。少し難しい内容もあったので、幼稚部や小学部のみなさんは、先生や家族と一緒に読んでみましょう。

※参考文献

- ・ 脇中起余子(2014)『聴覚障害教育これまでとこれから コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に』
- ・ 松崎丈(2017)平成29年6月10日基調講演資料より